

# クニマスの保護活動に協力しよう

——目的に応じて要旨を捉える——

使用教材: 幻の魚は生きていた(1年) 群馬県藤岡市立東中学校教諭 坂爪新太郎

## 1 指導計画(全五時間)

### ● 目標

◎ 説明的な文章の中心となる文や語句に着目しながら、要旨を捉える。

◎ 筆者の考えを基に、人間の生活と生き物や環境との関係について考えを深める。

### ● 展開

#### 第一次(一時間)

・ 文章を読み、内容の大体を理解するとともに、筆者がこの文章を書いた目的や意図について考える。

・ 筆者の目的や意図を受け、「クニマス」の保護活動を周知させるためのチラシを作成することを伝える。

#### 第二次(三時間)

・ 複数のチラシを比較し、その内容と構成について整理する。

・ 文章を読み、中心となる文や語句を手がかりに要旨をまとめ、グループで検討する。

・ 目的や相手を考え、構成を工夫したチラシを作成する。

#### 第三次(一時間)

・ 文章の内容を踏まえ、人間の生活と生き物、自然との関わり方について考

え、四千字程度の意見文を書く。

## 2 指導の工夫・学習の実践

説明的な文章教材を深く読むためには、文章に表現されていることだけでなく、その「背景にある筆者の目的や意図」について捉えていくことが大切である。そのうえで、文章の内容と実生活とを結びつける言語活動を設定することが必要であると考えた。

第一次では、筆者がこの文章を書いた目的や意図について考える。特に、結論で述べられている「クニマスの『里帰り』を手がかりにし、生徒が筆者の視点から文章を読み直し、その目的や意図を捉えられるようにする。そのうえで、「クニマス」の保護活動や人間の生活、文化との関わり方についてまとめ、多くの人に周知することを目的としたチラシ作りを行うことを伝え、学習の見通しをもたせる。

第二次では、文章の要旨をまとめることの必要感を生徒にもたせるために、チラシの内容と構成について整理する。要旨を捉える学習では、これまでの学びを生かし、中心となる文や語句を見

つけ、まとめる自力解決的な学習活動を設定する。また、チラシの作成に關しては、「チラシを読んだ人たちが保護活動に関心をもってもらえるのか」を生徒の評価の観点として示す。要旨をまとめる際には、文章としてまとめるのではなく、チラシの特性を生かして、要旨と必要な写真、絵、図表とを関連づけて書くように助言する。

第三次では、議論する活動を行う。「人間の生活と生き物、自然との関わり方」をテーマに、文章を読んで考えたことをグループで議論する。比較検討することで自分の考えを深め、文章にまとめる。

## 3 考察

説明的な文章は、内容や構成などといった表面的な読み取りに終始してしまふことが多い。「筆者の目的や意図という視点」や「実生活を想定した言語活動」を取り入れた今回の学習によって、生徒は主体的に文章に向き合い、筆者の意図や目的を考えながら、深く読むことができるようになるのではないかと考える。